

にちげんによぞうりゆうしゃかぶつくようじ
日眼女造立釈迦仏供養事

御書新版 1610頁 4行目〜5行目
御書全集 1187頁 6行目〜8行目

譬^{たと}えば、頭^{こうべ}を振^振ればかみ^髪ゆるぐ。

心^{こころ}はた^働らければ身^みうごく。大風^{おおかぜ}吹^ふけ

ば草木^{そうもく}しずかならず。大地^{だいち}うご

けば大海^{たいかい}さわがし。教主^{きょうしゅ}釈尊^{しやくそん}を

うごかし奉^{たてまつ}れば、ゆるがぬ草木^{そうもく}

やあるべき、さわがぬ水^{みづ}やある

べき。

通解

たとえば、頭^{あたま}を振^ふれば、髪^{かみ}
が揺^ゆれる。心^{こころ}が働^{はたら}けば、身^{しん}体^{たい}
が動^{うご}く。大風^{おおかぜ}が吹^ふけば、草^{そう}木^{もく}
も揺^ゆれる。大地^{だいち}が動^{うご}けば、
大海^{たいかい}も荒^あれる。同^{おな}じように、
教主^{きょうしゅ}釈尊^{しやくそん}（御本尊）を動^{うご}かせ
ば、揺^ゆるがない草^{そう}木^{もく}があるだ
ろうか、騒^{さわ}がない水^{みづ}があるだ
ろうか。